

Association of Mps one binder kinase activator 1 (MOB1) expression with poor disease - free survival in individuals with non - small cell lung cancer

安藤, 伸尚

<https://hdl.handle.net/2324/4474883>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学) , 課程博士

バージョン :

権利関係 : © 2020 The Authors. Thoracic Cancer published by China Lung Oncology Group and John Wiley & Sons Australia, Ltd. This is an open access article under the terms of the Creative Commons Attribution License, which permits use, distribution and reproduction in any medium, provided the original work is properly cited.

(別紙様式2)

氏名	安藤 伸尚			
論文名	Association of Mps one binder kinase activator 1 (MOB1) expression with poor disease - free survival in individuals with non - small cell lung cancer			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	小田 義直
	副査	九州大学	教授	中村 雅史
	副査	九州大学	教授	森 正樹

論文審査の結果の要旨

Mps one binder kinase activator 1 (MOB1)はHippoシグナル伝達経路の中核的な構成要素であり、その異常は様々な種類の癌の発生・増殖・進展と関連することが報告されている。今回申請者らは非小細胞肺癌(NSCLC)におけるMOB1発現と予後との関連の可能性を評価した。九州大学病院で2007年11月～2012年10月に手術を受けた205例の肺腺癌標本を用い、MOB1発現を免疫染色にて評価した。また、NSCLC細胞株のin vitroでの浸潤活性をTranswellアッセイによって評価した。MOB1の高発現は205例中105例(51.2%)で認められ、無病生存率の低下と有意に関連していた($p = 0.0161$)。様々な臨床パラメータとの比較から、MOB1高発現は脈管侵襲(vascular invasion)の増加と有意に関連した($p = 0.0005$)。多変量解析では、MOB1高発現は無病生存率の独立した危険因子であった

($p = 0.0319$)。H1299細胞・PC9細胞を用いたin vitroでの浸潤活性は、MOB1の強制過剰発現により増加、ノックダウンにより減少した。以上の結果よりNSCLCにおいて、MOB1は腫瘍細胞の脈管侵襲を増加させ、早期再発を促進する可能性が示された。

以上の結果はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々の質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。なお、本論文は共著者が10名を超えるが申請者が主導的に研究を遂行したことを確認した。

よって調査委員会合議の結果、試験は合格と決定した。